教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 生活環境学科　　資格： 教授　　氏名： 鎌田　誠史

研究分野	研究内容のキーワード
集住環境（アジア）、芸術工学、建築計画、地域計画	集落空間構成、居住空間、空き家活用、建築計画、まちづくり、デザイン人類学
学位	最終学歴
博士（芸術工学）	神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.授業における産学官連携に関する活動	2018年4月1日～現在	授業において、芦屋市、丹波市などの産学官連携による実践的な実習を企画運営している。
2.コミュニケーション能力向上を目指した授業	2011年4月~現在	「他の人に教える」、「自ら体験する」、「グループ討論」を主軸とした授業
2 作成した教科書、教材		
1.“Garden City MAITAMON”,MITSUIKE Project in Kobe	2010年6月	The International Awards for Liveable Communities 2010 Environmentally Sustainable Project Awards、編集・作成担当
2.建築設計資料集成－総合編	2001年6月	丸善、集落：歴史資産を活かした地域整備、掲載
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.オープンキャンパスへの参画貢献	2022年4月1日～現在	生活環境学科生活造形学科のオープンキャンパス委員の長として運営に携わっている。
2.丹波市「丹（マゴゴロ）の木」プロジェクト	2020年4月1日～現在	「丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度も実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部　農林整備課及び市内林産業者と本学教員・学生が行なっている実践的研究である。
3.シンポジウムの招聘講演	2019年11月24日	テーマ：琉球の風水説（フンシー）と久米村 日時と会場 ＊日時：2019年11月24日（日）午後２時～午後５時（３時間） ＊会場：ノボテル沖縄那覇（旧沖縄都ホテル） 内容と役割分担 ＊コーディネーター：高良倉吉（琉球大学名誉教授） ＊基調報告 ①風水師としての久米村の人材（仮題）―田名真之（沖縄県立博物館・美術館館長）30分 ②蔡温の風水思想とその実践（仮題）―仲間勇栄（琉球大学名誉教授）30分 ③「抱護」と沖縄の村落空間（仮題）―鎌田誠史（武庫川女子大学准教授）30分 コーディネーター：高良倉吉 パネリスト：田名真之、仲間勇栄、鎌田誠史
4.沖縄県公文書館からの依頼講演	2018年7月21日	「公文書活用講座］空中写真にみる沖縄の村落空間 沖縄県公文書館は、1945年の沖縄戦前後に米軍が撮影した空中写真を収集し、利用に供してきた。本講座では、空中写真がとらえた画像を活用して、沖縄の村落の基層に迫った。聴講者数約200名
5.神戸の新築住宅の設計	2017年8月30日～現在	神戸市岡本にある70坪の新築住宅の設計を行っている。住宅設計の実践で得たノウハウなどを学生指導に役立てる。
6.戸建住宅リノベーションプロジェクト	2017年6月1日～2018年9月30日	ゼミの実践型プロジェクトとして三田市にある戸建住宅約100坪の振るリノベーションを実施した。学生が実測・作図・提案を行いながら新しい生活空間へと再生を行った。
7.空き家活用異世代シェア居住プロジェクト	2017年4月～現在	一人暮らしの高齢者の自宅に学生が一時的に住み込む「空き家活用異世代シェア居住プロジェクト」は、西宮市東鳴尾地区を拠点に行う学生主体の実験的プロ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		ジェクトである。昨年度に本学の建築学科の学生が企画し、西宮市東鳴尾地区で住民交流カフェを運営するＮＰＯ法人なごみや西宮市、建築架、地元の不動産会社、大学などでつくる実行委員会が発足した。実行委員会の会議や企画により今回の高齢者と学生の短期異世代居住実験が実現した。 当該プロジェクトは、将来的に空き家に高齢者と学生が同居し、高齢者の社会参加と世代間交流の実現を目指し、さらには鳴尾地域で顕著に見られる空き家活用の方途を提案するプロジェクトとして大学が地域と連携しながら社会に貢献できる内容であり、本学の評価を高められると考えられる活動であるといえる。
8.芦屋浜高層住宅団地再生プロジェクト	2016年4月1日～現在	芦屋浜自治連合会、武庫川女子大学、兵庫県住宅供給公社がコアとなり、芦屋浜高層住宅団地の再生を行うプロジェクト。生活環境学科鎌田誠史研究室(住環境・地域デザイン研)の3年生8人を中心に約30人の学生がプロジェクトに参加。
9.福岡県大牟田市　地域医療･介護と空き家活用の可能性検討ワークショップ（企画・主催・講師）	2015年2月～2016年４月	医療・介護・福祉の専門家、居住支援協議会、高等教育機関の連携強化を目的として、地域医療・介護と空き家活用の可能性と具体的な活用策の検討。
10.非常勤講師	2014年10月	熊本県立大学居住環境学科　非常勤講師（比較住文化論）
11.福岡県大牟田市における空き家活用の可能性についての講演（講師）	2014年3月～2016年４月	福岡県大牟田市で実践している空き家の実態調査や空き家活用事例などを講演
12.福岡県大牟田市　空き家活用ワークショップ（企画・主催）	2014年3月	大牟田市居住支援協議会による、「大牟田市における空き家を活用した居住支援体制に関する基礎研究」の一環として実施した空き家調査において、実際に活用を希望する空き家の所有者から活用策の相談を受けたことにより、その活用策をワークショップ形式で検討を行った。
13.招聘講演「神戸の景観構造と田園風景」（講師）	2010年6月	神戸市市民参画推進局生活部男女共同参画課が主催する市民大学の講師として講演。
14.招聘講演「茅屋根の空間と神戸の田園風景」（講師）	2010年3月	神戸市都市計画総局計画部景観室が主催する市民講座に講師として講演。
15.大学ワークショップ「ガーデンシティ舞多聞」の企画・運営	2009年3月～2011年3月	ＵＲ都市機構の産学連携で進める自然住宅地プロジェクトの住民ワークショップの企画・運営。
4 その他		
1.生活環境学科学生委員	2017年4月1日～2019年3月31日	生活環境学科学生委員として、学科内の関連業務のとりまとめを担当した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.一級建築士免許取得	2003年2月10日	第308337号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.ギリシャ　アテネ国立工科大学建築学部（National Technical University of Athens School of Architecture）　客員研究員	2023年9月1日2024年8月31日	アテネ国立工科大学建築学部（National Technical University of Athens School of Architecture）の客員研究員として、2023年9月から1年間で「ギリシア・キクラデス諸島と日本・南西諸島の集落の守護性と共存の構造に見る持続可能な聖なる景観と島嶼文化の再考」をテーマに研究を行った。
2.ニュータウン再生コーディネーター	2021年4月1日～2022年3月31日	芦屋市芦屋浜高層住区のニュータウン再生にあたり、団地再生専門家として、兵庫県の団地再生専門家バンクの登録を受けて団地再生コーディネーターとして派遣が決定した。
3.ニュータウン再生コーディネーター	2020年11月11日～2021年3月31日	芦屋市芦屋浜高層住区のニュータウン再生にあたり、団地再生専門家として、兵庫県の団地再生専門家バンクの登録を受けて団地再生コーディネーターとして派

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		遣された。
4.平成31年度大学生による地域連携支援事業 「高層団地の活性化を担う人材の発掘と多文化を学ぶ市民参加の場づくり」事業	2019年5月1日～2020年3月31日	平成28年度にリニューアルした芦屋浜高層団地の集会所を住民参加型の多世代交流スペースとして多世代が共助的活動に参加できるように住民参加型ワークショップを中心としたコミュニティマネジメントを実施してきた。兵庫県住宅供給公社と住民団体とそれを支援する自治体、こくさいひろば芦屋の協働体制のもとで住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史）と大学生が中心となって住民参加型ワークショップを企画・運営する。その時には住民側の人材発掘のための調査やニーズの把握等を芦屋市と共同で実施しながら、「新たな担い手」の発掘とその組織化に向けて、調査とフィードバック、情報発信を行う予定である。また、こくさいひろば芦屋と協働しながら学国にルーツを持つ住民との交流を図るための市民参加型のイベントを開催することで、多文化を学びながら互いを理解しあう楽しい場づくりを行う予定である。 一連の研究内容を冊子にまとめて広く情報発信を行う予定である。
5.武庫川女子大学附属総合ミュージアム研究員	2019年4月1日~現在	附属総合ミュージアムの研究員として研究活動に参画している。
6.平成 30年度大学生による地域連携推進支援事業「高層団地の集会所と広場を拠点とした多世代交流スペースの提案」事業	2018年5月1日～2019年3月31日	大学と地域の連携事業の一環で芦屋浜高層団地の集会所を多世代交流スペースとして武庫川女子大の学生を中心に企画・設計・リノベーションを実施し、住民主体の住環境マネジメントの担い手として、多世代が共助的活動に参加できるようになるために、対象を高齢者のみに限定するのではなく、子育て世代、若年層（大学生）、子供とも快適に居住できる住環境の再生をめざして、多世代が相互に関わることができるコミュニティデザインを提示してきた。 その拠点となる場のデザインを行い、さらなる交流拠点の充実を図ることで団地再生のモデルを提示する。
7.武庫川女子大学生活美学研究所所員	2018年4月1日～現在	生活美学研究所の所員を兼務し、本学の研究活動に参画している。
8.戸建住宅のリノベーションプロジェクト	2017年6月～現在	ゼミの学生を中心に戸建住宅のリノベーションについて実測・提案・設計・監理まで一貫して実施している。
9.平成29年度大学生による地域連携推進支援事業「高層団地の集会所を拠点とした持続可能な多世代共助コミュニティの育成」	2017年4月～2018年3月	リニューアルした芦屋浜高層団地の集会所を住民参加型の多世代交流スペースとして多世代が共助的活動に参加できるように住民参加型ワークショップを中心としたコミュニティマネジメントを実施した。兵庫県住宅供給公社と住民団体とそれを支援する自治体、管理業団体、ＮＰＯ法人、専門家組織の協働体制のもとで住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史）と大学生が中心となって住民参加型ワークショップを企画・運営することで、持続可能な多世代共助コミュニティを育成することにより、住民主体型のコミュニティ活動へとつなげていった。
10.ニュータウン再生コーディネーター	2016年9月29日～2017年3月31日	芦屋市芦屋浜高層住区のニュータウン再生にあたり、団地再生専門家として、兵庫県の団地再生専門家バンクの登録を受けて団地再生コーディネーターとして派遣された。
11.神戸市景観審議会歴史的建築物保全活用部会副部会長	2016年4月1日～現在	神戸に存在する歴史的建造物の保全活用において、建築的、景観的観点等から景観形成重要建築物の指定対象候補の選定や活用を進めていくために必要なしくみや施策について検討する。
12.芸術工学会代議員	2016年4月～現在	
13.街なかストリートデザイン事業推進委員会での活動	2015年4月	福岡県大牟田市街なかストリートデザイン事業推進委員会委員を務める。
14.居住支援協議会での活動	2014年4月～2016年3月	福岡県大牟田市居住支援協議会委員を務める。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
15.市営住宅審議委員会での活動	2014年4月～2016年3月	福岡県大牟田市営住宅審議委員会委員長を務める。
16.中心市街地活性化協議会での活動	2013年4月～2015年3月	福岡県大牟田市中心市街地活性化協議会準備委員会委員を務める。
17.景観審議会での活動	2013年4月～2016年3月	熊本県荒尾市景観審議会委員を務める。
18.戸建住宅の設計、空き家活用検討ワークショップ・リノベーション（有明工業高等専門学校内）	2012年4月～2016年3月	4年間、戸建住宅の実施設計、福岡県大牟田市の空き家実態調査から活用検討ワークショップの実施、学生と共同で産官学連携による空き家リノベーションなどを実施。
19.日本建築学会九州支部計画委員会委員	2012年4月～2016年3月	日本建築学会九州支部計画委員会委員を務める。
20.自然住宅地のマスタープラン・コミュニティデザイン・コミュニティマネジメント（神戸芸術工科大学内）	2006年3月～2011年3月	5年間、ＵＲ都市機構と産学連携で行う、自然住宅地開発プロジェクトにおける68棟の住宅地マスタープラン・コミュニティデザイン・コミュニティマネジメント、内10棟の実施設計を経験する。加えて、150棟の住宅地マスタープラン・コミュニティデザイン・コミュニティマネジメントを経験する。
21.公共建築、商業建築、戸建住宅、店舗等の設計、世界遺産周辺整備事業、まちづくり（株式会社国建社内、株式会社聚文化研究所内）	1998年4月～2016年3月	12年間、公共建築、商業建築、戸建住宅、店舗等の基本設計、実施設計を、50棟以上経験する。また、世界遺産周辺整備事業として首里城をはじめとする伝統的な環境整備に従事。医療特区や伝統的なまちなみに特化したまちづくりに従事。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.基調報告3：「抱護」と沖縄の村落空間	共	2020年3月	公益社団法人久米国鼎会、令和元年度公益社団法人久米国鼎会文化講座「琉球の風水説と久米村」	久米国鼎会が主催する第９回公開文化講座「琉球風水説（フンシー）と久米村」の書籍化
2.「抱護」と沖縄の村落空間－伝統的地理思想の環境景観学	共	2019年2月25日	株式会社　風響社	*鎌田誠史*、山元貴継、浦山隆一 本書は平成30年科研の研究成果公開促進費（学術図書）（研究代表者：鎌田誠史）の採択を受けて刊行するものである。 本書は、琉球列島において広く重視されてきた環境理念「抱護（ほうご）」について、その機能と形態に注目しながら、実際に各地の伝統的村落にみられてきたその立地特性と住民の認識から、この地域における普遍的な空間形成技術および、集住環境の構成原理を明らか にすることを目指している。 この「抱護」の概念は、村落を囲む「伝統的な」人工林などにみられやすいが、これらは ただの防風林ではなく、伝統的な地理思想である風水思想やそれに基づく蔡温（琉球王府の三司官）の育林法、近世期の村立ての規範に反映される形で、この地域の各村落の構成に大きく関わってきた。本書では、このような「抱護」の概念自体と沖縄の近世村落の空間構成の関係について実証的な研究アプローチを行い、伝統的地理思想の環境景観学としてまとめている。
3.沖縄県地域史協議会2014年度　第２回研修会	共	2015年8月30日	富山国際大学現代社会学部	鎌田誠史企画・編集 村抱護を有する近世村落の空間構成と村立ての原理―石垣の村々を中心に― （鎌田誠史）、地籍図・土地台帳に記録された沖縄の村落―その構造と変化をめぐって（山元貴継） Ｂ５版学術雑誌（総頁数・45） 担当箇所：ｐｐ1～22（編集は全頁担当）
4.生き続ける琉球の村落 ： 固有文化にみる沖縄の環境観と空間形成技術 ： 学際シン	共	2013年1月15日	富山国際大学現代社会学部	鎌田誠史企画・編集 琉球の歴史と村落 （高良倉吉）、琉球の村落空間の復元と空間構成（鎌田誠史）、沖縄の村落・都市に残る「抱護」林のこん跡（山元貴継）、抱護と村獅子にみる沖縄の集落風水の変化 （鈴木一馨）、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
ポジウム				抱護の受容文化とその植生構造の特徴（仲間勇栄）、韓国の「裨補」と沖縄の「抱護」（澁谷鎮明） Ｂ５版学術雑誌（総頁数・78） 担当箇所：ｐｐ.13～19（編集は全頁担当）
5.集落：歴史資産を活かした地域整備	共	2001年6月	丸善、建築設計資料集成－総合編	日本建築学会編、齊木崇人、鎌田誠史、懸樋喜康 要約：歴史遺産を活かした地域整備事例として、自身が設計に携わった国宝・太山寺の子院や庭園・門等の整備、塔頭龍象院の再生整備の内容を掲載 Ａ４版学術本・pp.606～pp.617（総頁数・669） 担当箇所：p.614（作品、図面の掲載）
2 学位論文				
1.近世末期の沖縄本島における間切番所が置かれた村落「主村」の空間構成原理に関する研究－村落の空間構成の復元を通じて－	単	2009年3月	神戸芸術工科大学	本研究は、沖縄本島の近世期以降にさまざまな意味で空間的に再編成されてきた村落、特に琉球王府が間切･村の統制を行う際に重視した行政施設「間切番所」の置かれた沖縄本島の村落「主村」を対象として、それらの空間構成の復元を通じて間切番所の配置構成を明らかにし、村落の空間的な構成要素の分析から村落空間の特徴を探究することを目的としている。
3 学術論文				
1.産官学連携におけるまちづくりワークショップの実践記録（Part_2）―芦屋市茶屋さくら通りを対象として―	共	2025年1月31日	生活環境学研究12号	巻 12, p. 40-43, 発行日 2025-01-31 岡本，真由子 、*鎌田 誠史*、合田，昌宏 本教育・研究誌の前号である「生活環境学研究 NO.11 2023」の「論説・報告」欄に「産官学連携におけるまちづくりワークショップの実践記録 ―芦屋市茶屋さくら通りを対象として―」を発表している。本稿は，そのプロジェクトのひとつにあった「えほんみらいプロジェクト」の続編である。
2.地中海沿岸の住居・集落・街―ギリシャ・アテネ国立工科大学建築学部での在外研修報告その2―	単	2025年1月31日	生活環境学研究12号	巻 12, p. 67-76, 発行日 2025-01-31 前掲の報告その１では，「エーゲ海・キクラデス諸島の歴史的な集住環境の空間構成と地域固有のエコロジカルな環境構築技術についての研究」をテーマに，キクラデス諸島の島嶼集落のフィールド調査について報告した。とくに本研修の対象であるエーゲ海のキクラデス諸島の固有性と日本の南西諸島との共通性について，今後の研究におけるテーマを発見できたことは今回の海外研修において大きな収穫であった。 私はエーゲ海の美しい海に浮かぶキクラデス諸島の集落のフィールド調査を重ねていくにつれ，さらなる興味が浮上していた。それはエーゲ海を理解するためには，それを包含するもっと大きな海域，つまり「地中海」の存在を無視することはできないということであった。エーゲ海はギリシャとトルコに囲まれた円環であり，ひとつの文化圏とまとまりを示していると言えるが，地中海は，様々な国に接した多様な文化圏が入り混じった壮大な世界である。先行研究によると，「地中海の取り巻く地域は，世界のなかでも，もっとも古い都市文明を今日まで受け継いできたところといえる。古代エジプトも，メソポタミアの文明も，その後の地中海世界の都市や建築のあり方に大きな影響を与えた。古典古代のギリシャ，そしてヘレニズム，あるいはフェニキア，その後ローマなど，古代の文明はいずれも高度に発達した市民生活のための都市を生み，気候風土に合う社会や家族のあり方に適した形態をつくりだした。」とされ，エーゲ海を理解するためには，この地中海を少しでも見ておく必要があると思い至った。 以上より，本研修ではギリシャを拠点にして，地中海に接する近隣諸国の美しい集落をフィールド調査したが，本報告ではその一環として巡った，地中海沿岸の住居・集落・街について紹介したい。
3.エーゲ海・キクラデス諸島の聖なる景観と島嶼文化―ギリシャ・アテネ国立工科大学建築学部での在外研修報告その1―	単	2025年1月31日	生活環境学研究12号	巻 12, p. 57-66, 発行日 2025-01-31 「エーゲ海・キクラデス諸島の歴史的な集住環境の空間構成と地域固有のエコロジカルな環境構築技術についての研究」をテーマに，キクラデス諸島の島嶼集落の調査を実施した。これは，ギリシャ・エーゲ海に浮かぶ伝統的な島嶼集落の空間構成と地域固有のエコロジカルな環境観を歴史的生活空間が持つ特徴的な空間形成技術とし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				て捉え，持続可能な集住環境の構成原理と固有価値の多角的な評価モデルの作成を通じて，それらを可視的に検討することを目的としている。これらの成果を手掛かりに，今まで行ってき南西諸を含むモンスーンアジアの島嶼集落研究と比較することで，自然環境に対応した生活空間の持続可能性や，島嶼型減災に備える「リスクリダクション」，歴史的景観に配慮した景観形成への方途を検討するものである。加えて研究を推進するための国際的な共同研究体制の構築を図りたいというのが研修の主なテーマであった。
4.産官学連携におけるまちづくりワークショップの実践記録―芦屋市茶屋さくら通りを対象として―	共	2023年12月1日	生活環境学研究11号	巻 11，p. 21-26 岡本，真由子 、*鎌田 誠史*、合田，昌宏 要約：「茶屋七夕フェスタ」は，官民が連携して，地域活性化につなげる「芦屋市茶屋さくら通り周辺官民連携エリアプラットフォーム構築」の事業として，茶屋之町自治会，茶屋さくら通り事業者会，芦屋市で成る「茶屋さくら通り協議会」が主催，武庫川女子大学が共催し，2023年7月1日から7日までの間，JR芦屋駅南の茶屋さくら通りとその周辺で開催した。 当フェスタにおいて，「七夕飾りワークショップ」「まちの魅力再発見！」「教えて！このまちの好きなトコロ！」は，生活環境学科まちづくりコースの授業「フィールドデザイン演習Ⅲ」の一環として，履修した3年生10人が取り組んだ。 「茶屋七夕フェスタ」開催中の7月2日，「デコルテstudio」（茶屋之町2-23）を会場に，来場者とともに桜の形をした七夕飾りを作り，作品はイベント会期中茶屋さくら通りの桜の木に展示した。学生たちは，事前に地域の子どもたちとワークショップを行って，地域のまちづくり絵本を作成したり，キャラクターのグッズを作成したりしており，学生たちの活動がイベントで終わるのではなく，まちづくりに発展することを目標にした。本稿では，その実施内容について報告する。
5.CHARACTERISTICS OF TOPOGRAPHICAL LOCATION AND SPATIAL COMPOSITION ON VILLAGES ON KIKAIJIMA ISLAND, NANSEI ISLANDS ― Reconstructing spatial composition of villages immediately before and after World War II―（査読付）	共	2023年7月9日	Japan Architectural Review International Journal of Japan Architectural Review for Engineering and Design (JAR)	*Seishi KAMATA*, Takatsugu YAMAMOTO, Takakazu URAYAMA, Sizuaki SHIBUYA and Takahito SAIKI Translated Papers The purpose of this study was to reconstruct the spatial characteristics of the villages on Kikaijima Island immediately before and after World War II to examine the characteristics of these spatial characteristics within the context of the topographical situation of the villages. In this study, we clarified the commonalities and differences of the location and spatial composition of the villages by analyzing aerial photographs of all of the villages on Kikaijima Island by the US military immediately before and after World War II. DOI：https://doi.org/10.1002/2475-8876.12379
6.沖縄における「格子」状集落の計画性	共	2023年	武庫川女子大学生活美術研究所紀要32号	山元貴継、浦山隆一、*鎌田誠史* pp.128-138
7.南西諸島・喜界島における村落の地形的立地条件と空間構成の特徴－第二次世界大戦前後の村落空間の復元を通じて－（査読付）	共	2022年1月	日本建築学会計画系論文集　2022年1月　第87巻　第791号	*鎌田誠史*、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明、齊木崇人 査読付 要約：本研究では、喜界島の各村落について第二次世界大戦直後の空間復元を行い、それをもとに、地形的立地条件による空間構成の特徴を分析し、考察し検討した。その分析においては、近代以降の著しい変容を経験する以前の各村落の空間構造に対する統一手法による空間復元図の作成に基づいて、可視的なモデルを提示しながら詳しく検討した。本研究では、戦後の米軍撮影空中写真を入手できた喜界島の全村落を対象とした分析を行い、加えて各村落の立地および空間構成の共通性や相違点を明らかにし、それらと地形的条件との関係に注目する類型化を試みた。 pp.76-87
8.まちづくりの今とこ	共	2019年11月	武庫川女子大学、	特集：生活環境学座談会

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
れから			生活環境学研究 第７号	「まちづくりの今とこれから」 pp8-17
9.「抱護」と沖縄の村落空間	単	2019年11月	武庫川女子大学、生活環境学研究 第７号	出版した書籍「抱護」と沖縄の村落空間の紹介 pp34-39
10.The Practice of Contemporary Residential Engagement Communities in Japan:Taking the Maitamon Project as an Example（査読付）	共	2019年10月	中南建築設計院有限公司	中国の建築系学会誌への掲載 査読付 任亜鵬、*鎌田誠史*他 「HUAZHONG ARCHITECTURE VOL 37 NO.269」 pp.22-26
11.「道家思想」からみた吊脚楼の空間構造に関する研究（査読付）	共	2019年1月	芸術工学会誌	査読付 任 亜鵬、齊木崇人、*鎌田誠史* 本研究は、長期にわたって人々に重視されてこなかった中国の西南地方にある伝統的な民家の一種類である吊脚楼を対象に、建築空間に内在する伝統的な意匠哲学を捉え、苗族と土家族の伝統的な吊脚楼について、現地調査と『道徳経』などの文献調査を通じて、それらの吊脚楼の建築空間に内包されている意匠哲学を考究することを目的とする。前篇『中国西南地方の苗族、土家族の集落空間における自然観に関する研究』に続き、研究では、伝統文化を持つ苗族、土家族の吊脚楼の空間の構成原理について、現在の伝統文化を軽視した中国の建築設計にとって参考にすべき重要な価値があると考えた。 本研究ではまず、吊脚楼の歴史的伝承、特徴及び道家思想との関連性を述べてから、道家思想にある自然観と空間観を考察した。特に、道家思想の「実」と「虚」の理念を抽出し、建築空間との結び付きについて論じている。 pp.134-141
12.地方都市における空き家所有者の管理実態・活用意向の分類から見た空き家活用の阻害要因の考察（査読付）	単	2018年11月	武庫川女子大学、生活環境学研究 第６号	査読付 本研究は，人口減少の著しい福岡県大牟田市における戸建ての空き家を対象にその分布や実態を明らかにした。市全域の空き家の実態調査から抽出した空き家所有者への管理実態・活用意向の特徴を分析することで，所有者の観点から空き家が活用されない要因，すなわち空き家活用の阻害要因について検討を行った。そして所有者の空き家管理実態と活用意向を把握し，管理実態と活用意向の関係や活用意向のタイプを分類しながら空き家活用における阻害要因について検討を通じて空き家供給の可能性について検討した。 pp.12-21
13.東南アジア考古学	共	2018年	宮古島狩俣集落土墨調査概報	査読なし 石井龍太、山本正昭、阿部常樹、久我谷溪太、浦山隆一、*鎌田誠史* pp.57-61
14.団地集会所改修プロジェクトを通じた実践的生活環境学教育の試み	単	2017年9月	武庫川女子大学、生活環境学研究 第５号	芦屋浜シーサイドタウンの高層住宅地区第２集会所における改修計画への企画・設計・施工にわたる学生の参加を通じて，空間デザインやコミュニティデザインを実践的に学ぶ機会を提供する域学連携の教育プログラムの実施内容についての報告である。 pp.30-35
15.住民参加型による自然豊かな居住環境デザインの実践―神戸・ガーデンシティ舞多聞みついけプロジェクト―（査読付）	共	2016年9月	武庫川女子大学、生活環境学研究 第４号	*鎌田誠史*、齊木崇人 査読付 要約：新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す神戸・ガーデンシティ舞多聞の第1工区目であるガーデンシティ舞多聞「みついけプロジェクト」についてのまちづくりプロセスについてスペースデザイン、コミュニティデザイン、コミュニティマネジメントの３つの視点から述べている。このプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学，そして住民との連携で進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				コミュニティづくりを目指すこのプロジェクトは，約6haの面積に、宅地68区画，緑地公園，街区公園，共同施設（コミュニティスペース）が配置される。 pp. 22-33（代表執筆者）
16.地形的立地条件から見た琉球列島における村落の空間構成に関する研究－近世期に発生した計画的村落の形態類型を通じて－（査読付）	共	2016年1月	日本建築学会計画系論文集 第81巻　第719号 pp.11-21	*鎌田誠史*、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明 査読付 本研究は、琉球列島の村落を対象として、近世期に村立てされたとされる琉球列島各地の村落を抽出し、地形的立地条件との関係に注目しながら類型分類を行って、各村落の空間構成を詳しく分析することを目的としていく。なお、基礎資料の少ない沖縄において、近世期の村落の空間構成を解明することは困難であるが、先行研究において、近世末期から近代初期にみられた村落の空間構成は共通して昭和20年頃まであまり変化することなく維持されていたことが検討できたことから、第二次世界大戦前の村落の状況を復元的に分析することで、近世期の村落空間構成を知る手がかりとなるのではと考えられた。 本人担当頁：pp.11-21（代表執筆者）
17.沖縄本島・旧勝連間切の近・現代における村落空間の特徴と変遷－村落空間構成の復元 を通じて その2－（査読付）	共	2014年6月	日本建築学会計画系論文集 第79巻　第700号 pp.1329～1335	*鎌田誠史*、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明 査読付 要約：本研究は、沖縄本島・旧勝連間切（現うるま市勝連町）の南風原村、平安名村、内間村、平敷屋村を対象として、明治期の資料などから村落空間の復元図を作成し、明治期の村落空間の特徴を示すとともに、現在に至る空間的変遷を明らかにすることを目的とする。明治期の地籍図を用いて村落空間の復元図を作成し、空間的な特徴を述べる。地籍図を活用することで、今まで明らかにされていなかった明治期における村落の特徴を可視的に示すことが可能となる。 本人担当頁：pp.1329～1335（代表執筆者）
18.八重山・石垣島の近・現代における村落空間の特徴と変遷に関する研究－村落空間構成の復元を通じて　その１－（査読付）	共	2012年9月	日本建築学会計画系論文集 No.979　pp.73～79	*鎌田誠史*、浦山隆一、齊木崇人 査読付 要約：本研究では、沖縄県石垣市の平得村・真栄里村、大濱村、宮良村、白保村を対象として、明治期の資料から村落空間の復元図を作成し、明治20～30年の村落空間の特徴と現在に至る空間的変遷を考察することを目的としている。一つは、明治20～30年に作成されたとされる、「八重山古地図」と明治35年作成の地籍図を用いて村落空間の復元図を作成し、空間的な特徴を述べる。もう一つは、作成した明治期の復元図を、昭和20年頃の米軍撮影空中写真）、昭和50～56年作成の「一筆地調査図」注４）、現在の地籍併合図、住宅地図と比較することで明治20～30年から現在に至る村落空間の変遷を明らかにするものである。 本人担当頁：pp.73～79（代表執筆者）
19.神戸「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト7、てらいけプロジェクト3	共	2011年11月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2011」	*鎌田誠史*、齊木崇人、佐々木宏幸、谷口文保、久本直子 要約：てらいけプロジェクトの「スペースデザイン」、「まちづくりのルール」、「住まいづくりデザインガイドライン」、「住民参加型プロセスの検討」、てらいけの目指すまちづくりの「公開講座」、みついけプロジェクトのコミュニティマネジメントの実践として「ネイチャーアートワークショップ」、「絵本づくりプロジェクトと読み聞かせワークショップ」について言及した。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/wp-content/uploads/2011/11/8_kamata_hokoku_2011.pdf 総頁数：12頁 本人担当頁：1～12頁の執筆（代表執筆者）
20.環境デザイン教育に関する国際教育プログラムの構築と実施方法に関する研究	共	2011年11月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2011」	佐々木 宏幸、川北 健雄、岡村 光浩、*鎌田 誠史* 要約：本研究では、2011年1月に本学で1週間にわたり実施された、アムステルダム在住の本学の吉良森子客員教授によるワークショップ「吉良森子と都市を考える」の実施経験をもとに、その準備・実施・フォローアップの経緯を概観するとともに、環境デザイン分野における国際教育プログラムの構築や実施方法に関して考察した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				http://kiyou.kobe-du.ac.jp/wp-content/uploads/2011/10/21_sasaki_2011.pdf 総頁数：４頁 共同研究につき本人担当分抽出不可能
21.ガーデンシティ舞多聞」における コミュニティデザインとコミュニティマネジメントの実践的研究	共	2011年11月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2011」	*鎌田誠史*、谷口文保、久本直子、齊木崇人、佐々木宏幸 要約：「ガーデンシティ舞多聞」の第1工区目である「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトの「空間デザイン（住まい、緑等）」「コミュニティ」「マネジメント（ルールづくり、組織づくり等）」といった専門分野のサポートを行うことより、安定し、持続的なまちづくりや自立した持続可能な地域コミュニティづくりの報告である。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/wp-content/uploads/2011/11/8_kamata_hokoku_2011.pdf 総頁数：４頁 本人担当頁：１～４頁の執筆（代表執筆者）
22.神戸「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト6、てらいけプロジェクト2	共	2010年11月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2010」	齊木崇人、佐々木宏幸、*鎌田誠史*、谷口文保、久本直子 要約：「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト、てらいけプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そして住民との連携で進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指すこの産学連携プロジェクトについての報告である。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/wp-content/uploads/2010/11/6_saiki.pdf 総頁数：16頁 本人担当頁：1～16頁の執筆
23.近世末期の沖縄本島における間切番所が置かれた村落「主村」の空間構成原理に関する研究 （査読付）	共	2009年10月	芸術工学会誌 No.50 pp.75～82	*鎌田誠史*、齊木崇人 査読付 要約：本研究は近世期に琉球王府が村落統制を行う際に重視した沖縄本島の「主村」を対象として、それらの景観復元を通じて間切番所の配置構成を明らかにし、村落の景観的な構成要素の分析から村落空間の特徴を探究することを目的としている。現在の沖縄村落の構造的起源を近世期に求め、その特徴について、文献・既往研究や聞き取り・現地調査及び近世末期の村落景観復元を通じて検討した。 本人担当頁：pp.75～82（代表執筆者）
24.神戸「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト5、みついけ南プロジェクト2、てらいけプロジェクト1 コミュニティデザイン、スペースデザイン、エリアマネジメント	共	2009年3月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2008」	齊木崇人、土肥博至、小玉祐一郎、川北健雄、谷口文保、上原三知、*鎌田誠史*、長野真紀、宮代隆司、橋本大樹 要約：新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す、「神戸ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト、みついけ南プロジェクトの「コミュニティデザイン」「スペースデザイン」「エリアマネジメント」の報告である。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/08/report/#t01 総頁数：13頁 本人担当頁：10～13頁の執筆
25.「生きられるコミュニティ」の創生と再生－中世集落からガーデンシティ、そしてニューガーデンシティへ	共	2009年2月	株式会社ビオシティ、BIO-City no.41 pp.46～59	齊木崇人、*鎌田誠史*、宮代隆司、橋本大樹 要約：「生きられるコミュニティ」はなぜ生きつづけているのか、レッチワースの田園都市の歴史的経験に学んで計画された「神戸ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトの宅地開発プロジェクトについて掲載 Ａ４版学術雑誌・pp.46～59（総頁数・132） 担当箇所：pp.56～59（作品、図面の掲載、主に住宅デザインについての文章を担当）
26.近世末期・沖縄の間切番所が置かれた村落（主村)における空間構成の復元に関する研究 （査読付）	共	2009年1月	日本建築学会計画系論文集 No.635 pp.75～82	*鎌田誠史*、齊木崇人 査読付 要約：本研究は、沖縄本島の村落「主村」を対象として、それらの空間構成の復元を通じ、村落の空間的な構成要素の分析から村落空間の特性を明らかにすることを目的としている。本研究が対象とする「主村」とは、近世期に琉球王府が間切･村の統制を行う際に重視した行政施設「間切番所」の置かれた村落を指し、それらの空間構

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				成の復元を通じて沖縄村落の空間構成原理を考究するものである。 本人担当頁：pp.75～82（代表執筆者）
27.神戸「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト4、みついけ南プロジェクトコミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネージメント	共	2008年3月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2007」	齊木崇人、土肥博至、杉本正美、小玉祐一郎、川北健雄、上原三知、ヒメネス ベルデホ・ホアン ラモン、*鎌田誠史*、長野真紀、李勝煥、宮代隆司、橋本大樹 要約：新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す、「神戸ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト、みついけ南プロジェクトコミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネージメントの報告である。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/07/report/05-01.html 総頁数：17頁 本人担当頁：9～12頁の執筆
28.NEWGARDENCITYPROJECTINKOBE-GARDENCITYMAITAMON-（査読付）	共	2008年	EAROPH World Congress and Mayors’Caucus、2008	Takahito SAIKI, Takashi MIYASHIRO, *Seishi KAMATA*, Tomoki HASHIMOTO, MakiNagano 査読付 Abstract: This paper reports the practices of ”spatial design”, ”community development” and ”area management” of Garden City MAITAMON in Kobe, based on “New Garden City Concepts”. The concepts bore as the outcomes of “The New Garden City International Conference 2001” held for the purpose of learning the experiences of Garden City Movement and Letchworth Garden City over 100 years. 総頁数：10頁 本人担当頁：主に８～９頁の住宅デザインに関する部分
29.新田園都市実験　第7回	共	2007年8月	建築資料研究社、住宅建築　2007年8月号　no.388 pp.90～99	齊木崇人、*鎌田誠史*、長野真紀、宮代隆司 要約：新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す、「神戸ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトにおいて、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そしてこれから住まおうとする住民との連携で進められている、宅地開発プロジェクトについて掲載 Ａ４版学術雑誌・pp.90～99（総頁数・195） 担当箇所：pp.94～99（作品、図面の掲載、主に住宅デザインについての文章を担当）
30.神戸「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト2-住まいづくり、ルールづくり、ネットワークづくり-	共	2007年3月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2006」	齊木崇人、土肥博至、杉本正美、小玉祐一郎、川北健雄、上原三知、ヒメネス ベルデホ・ホアン ラモン、*鎌田誠史*、長野真紀、李勝煥、宮代隆司、橋本大樹 要約：新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す、「神戸ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクト、みついけ南プロジェクトコミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネージメントの報告である。 http://kiyou.kobe-du.ac.jp/07/report/05-01.html 総頁数：17頁 本人担当頁：9～12頁の執筆
31.読谷村喜名番所の形状・規模の分析と整備の概要	単	2005年3月	読谷村立歴史民族資料館紀要　第29号　pp.1～15	要約：「世界遺産周辺整備事業」の一環として、琉球王府時代の間切番所である「喜名番所」を再生した際に検討した建築物の形状・規模の分析手法や整備の概要の報告である。 総頁数：15頁 本人担当頁：1～15頁の執筆
32.太山寺塔頭・龍象院歴史的資産の再発見と民家再生	共	2000年3月	神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2000」	齊木崇人、*鎌田誠史* 要約：1992年度から始まった「太山寺及びその周辺地域整備事業」の一環として、建築後200年以上を経た太山寺の塔頭「龍象院」を再生した「龍象院再生整備実施設計」の報告である。 総頁数：14頁 本人担当頁：1～14頁の執筆
33.東アジアの住居・集落	共	1996年6月	建築資料研究社、造景　96-６　no.３　pp.95～118	齊木崇人監修、伴丈正志、青井哲人、横井信子、鈴木成文、澁谷鎮明、張亭菲、堀内研自、朴勇煥、*鎌田誠史*、他 要約：科研「東アジアにおける集落・居住空間の秩序形成技術に関する研究（代表・鈴木成文）におけるフィールドワーク（中国・陸

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				巷）の成果を掲載。 Ａ４版学術雑誌・pp.95～118（総頁数・195） 担当箇所：pp.98～102,107（集落図、断面図、陸巷の風景についての文章を担当）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.沖縄県における明治30年代の「屋敷地番」とその活用	共	2022年9月	日本地理学会2022年秋季学術大会（於香川大学）	山元貴継、鎌田誠史、浦山隆一、澁谷鎮明
2.沖縄本島・勝連南風原集落と 「モトジマ（元島）」	共	2019年11月	人文地理学会大会（於関西大学）	山元貴継・鎌田誠史・浦山隆一
3.空中写真にみる沖縄の村落空間	単	2018年	平成30年度 沖縄県公文書館公文書活用講座（招待講演）	
4.地方都市における空き家と居住世帯の小規模化・単身化の実態に関する調査－福岡県大牟田市を事例に－	共	2015年3月	日本建築学会九州支部　研究発表	鎌田誠史、飛田国人、大川泰毅、里中拓矢 要約：大牟田市全域の戸建て住宅を対象に空き家の実態調査を行い、空き家数や損耗状況等を明らかにすることで、大牟田市における空き家活用に向けた基礎的知見を得るとともに、居住世帯の小規模化・単身化の実態を明らかにして、その特徴を考察することを目的としている。 報告集第54号、pp.309～313
5.近世期に村立てされた格子状村落の空間構成に関する研究 －宮古島・伊良部島の村落を事例として－	共	2015年3月	日本建築学会九州支部　研究発表	鎌田誠史、浦山隆一、山元貴継、齊木崇人 要約：近世期に村立てがなされた村落の形態的特徴を明らかにすることで、現在の沖縄村落の構造的起源とされる「近世村落」の村立ての原理について理解が可能であるという仮説のもと、沖縄列島の近世期に村立てされた村落、なかでも特に計画的な地割形態をもつ格子状村落を抽出し、空間形成技術を分析することで近世村落の形成原理を明らかにすることを目的とする。 報告集第54号、pp.417～420
6.与論島における城・朝戸集落の空間構成の特徴に関する研究	共	2014年3月	日本建築学会九州支部　研究発表	大川 泰毅 ，鎌田 誠史、浦山隆一 要約：本研究は与論島の城・朝戸集落を対象に集落の空間構成の特徴を明らかにすることを目的としている。 報告集第53号、pp.257～260
7.沖縄県今帰仁村今泊における集落空間の特徴と変遷 ： 集落空間の復元を通じて	共	2013年3月	日本建築学会九州支部　研究発表	大川泰毅 ，鎌田誠史 要約：本研究では、沖縄県今帰仁村今泊を対象として、1920 年頃から1945 年（以下、戦前）までの集落空間の復元を行い、その特徴と現在に至る空間的変遷を考究することを目的としている。 報告集第52号、pp.205～208
8.石垣島平得村・真栄里村における村落空間の特徴と変遷－明治期の資料を活用した村落の空間構成の復元を通じて－	共	2012年3月	日本建築学会九州支部　研究発表	鎌田誠史、浦山隆一 要約：本研究では、沖縄県石垣市の平得村・真栄里村を対象として、明治期の資料から村落空間の復元図を作成し、その特徴と現在に至る空間的変遷を把握することを目的としている。 報告集第51号、pp.197～200
9.沖縄本島の集落・喜名村における伝統的人工林「抱護」の形態	単	2009年11月	芸術工学会秋季大会　研究発表	「抱護（林）」は、かつて沖縄に広く存在した人工林である。ここでは、「抱護(林)」の歴史的背景をたどりながら、沖縄本島の喜名集落に存在した「抱護（林）」を対象に、米軍撮影空中写真や一筆地調査図を使用して、失われた「抱護(林)」の形態について分析内容を発表した。 芸術工学会誌　No.51　p50
10.西表島・祖納集落の聖域構成と空間秩序 ： 東アジアの集落・住居空間研究 20	共	1997年7月	日本建築学会　研究発表	浦山 隆一 ，齊木 崇人 ，鎌田 誠史 ，渋谷 鎮明 ，那根 律子 要約：本研究は、西表島・祖納集落にある集団性や共同性を象徴する「聖域（ウガン・御嶽）」の分布を把握し、聖域の空間構成を類型化し、それぞれの空間的特徴について報告すると共に廃村「上村」を視野に入れて、聖地の変遷から集落構造を考察している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
11.西表島祖納集落の祭祀空間と神道 ： 東アジアの集落 住居空間研究 21	単	1997年7月	日本建築学会　研究発表	概要集：No.1997　pp.513～514 本人担当頁：pp.513（調査まとめ、作図） 林 尚子 ， 齊木 崇人 ， 浦山 隆一 ， 渋谷 鎮明 ， 香野 淳信 ， 鎌田 誠史 要約：本研究は、西表島・祖納集落の豊年祭（豊作を神（祖先）に感謝する祭り）の実態調査より、御嶽の役割や「神道」の存在などを含めた集落空間の特性について考察している。
12.西表島・祖納集落の屋敷構えと住居の空間構成 ： 東アジアの集落・住居空間研究 22	共	1997年7月	日本建築学会　研究発表	概要集：No.1997　pp.515～516 本人担当頁：pp.515（調査まとめ、作図） 浦山 隆一、齊木 崇人、鎌田 誠史、渋谷 鎮明、那根 律子 要約：本研究は、中国・江南地域の2つの集落における住居の空間構成を類型化し、それぞれの住まい方について報告した。 概要集：No.1997　pp.517～518 本人担当頁：pp.521～522（代表執筆者）
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.住宅・「神戸市西区」の住宅	単	2023年	個人住宅の新築	担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計 神戸市西区の個人住宅の設計を行った。
2.集合住宅・「神戸市北区」の住宅	単	2020年	民間集合住宅の新築	（神戸市） 担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 研究室のプロジェクトとして鉄骨造・3階建ての集合住宅の設計を行った。
3.住宅・「岡本」の住宅	単	2020年	個人住宅の新築	担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計 神戸市のＪＲ岡本駅にほど近い住宅地に個人住宅の設計を行った。
4.住宅・「三田」のリノベーション	単	2019年	個人住宅のリノベーション	（三田市） 当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 研究室のプロジェクトとして個人住宅の大規模なリノベーションを行った。
5.住宅・「与論島」の住宅	単	2014年	個人住宅の新築	（鹿児島県与論町） 担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 鹿児島県の最南端の島・与論島に建つ木造平屋建ての一般住宅の設計を行った。琉球と薩摩の影響を受けた当地域では、独特の文化を有している。また毎年、台風被害が多いため与論島の伝統的な居住形態である軒を低くして屋敷林による防風を取り入れた。沖縄地方独自の半屋外空間「雨端（アマハジ）」を設けて、そこを地域住民が集まる空間とした。建物はすべて開放的な空間とし、直射日光を防御しながら自然風を取り入れる工夫を行っている。
6.福岡県大牟田市の空き家活用に関するワークショップ・リノベーション	共	2013年～2016年4月現在	ワークショップ・リノベーション	（福岡県大牟田市） 担当種別：主担当、担当内容：空き家実態調査、公開講座、ワークショップ、リノベーション 大牟田市では住宅セーフティネット法にもとづく居住支援協議会をH25.6月に設立し、有明高専鎌田研究室と連携して民間戸建て住宅を中心とした市全域の空き家悉皆調査や空き家活用ワークショップを開催している。人口が減少し空き家が急速に増加している地方都市大牟田において、住居を単体として捉えるのではなく、空き家を地域資源として捉えた活用策について、住宅のハード整備に加えて新たな発想による入居支援システムの構築を図った実践的な調査・研究を官学連携で行うことで、従来の定住移住政策だけでは抜本的な空き家解消が図れない空き家活用の新た な方途を考究することを目的として、ワークショップや空き家のリノベーションなどを有明高専の学生を中心に実施している。
7.住宅・「ガーデンシティ舞多聞みついけ」の住宅、10物件	共	2011年	個人住宅（10物件）	（兵庫県神戸市） 担当種別：主担当（管理建築士）、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指す「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトは、約6ha の面積に、宅地68区画、緑地公園、街区公園、共同施設が配置される。この住宅地に建つ住宅の8世帯を設計した。敷地面積が300坪以上の自

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				然に囲まれた住宅地に立地する住宅としてふさわしい空間となるよう伝統的民家をモチーフにして現代的な解釈を加えて自然と一体的な空間の創出を行った。ガーデンシティ舞多聞の宅地は造成を極力行わすに自然地形をいかしているため、住宅設計においても土地に敬意を払ったデザインとなるようそれぞれの宅地の特徴を見極めながら設計を行った。また住民とともに設定したルール（建築協定・緑地協定）の実践的な検証を行うことができた。
8.福祉施設・デイサービスセンター新築工事	単	2008年	福祉施設	（兵庫県姫路市） 担当種別：主担当（管理建築士）、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 姫路市郊外に建つ福祉施設の設計を行った。敷地前面の畑に色とりどりの花を植えてそこに開かれた空間として施設を設計した。畑に開放された広いウッドデッキと部屋の建具を全面開放型とすることで利用者が日向ぼっこや読書など開放的な空間で過ごせるように工夫した。また畑で野菜や花を育てるケアプログラムを導入することで、いいきいきとした生活をとりもどす一助となっている。都会では味わえない自然に囲まれた環境のなかでサービスを受けることができる施設である。
9.店舗・「沖縄」のダイニングカフェ	単	2007年	店舗	（沖縄県読谷村） 担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 読谷村やちむん（焼物）の里内に計画された住宅の設計を行った。陶芸ができる工房を併設した２階建ての木造住宅で、沖縄独自の半屋外空間「雨端（アマハジ）」を設けて開放的な空間とし、屋根は沖縄県産の赤瓦を施して周辺環境との調和を図った。
10.住宅・「沖縄」の住宅	単	2007年	個人住宅	（沖縄県恩納村） 担当種別：主担当、担当内容：基本設計・実施設計・設計監理 恩納村のＲＣ造２階建ての一般住宅の設計を行った。１階はピロティとし、２階を居住空間として。既設倉庫の屋上を利用して広いテラスを設けて開放的な空間となるよう設計した。
11.ガーデンシティ舞多聞コミュニティ形成・コミュニティマネジメント	共	2006年～2011年3月	コミュニティデザイン・コミュニティマネジメント	（兵庫県神戸市） 担当種別：主担当、担当内容：公開講座、ワークショップ 「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトでは、神戸芸術工科大学が、継続的に「空間デザイン（住まい、緑等）」「コミュニティ」「マネジメント（ルールづくり、組織づくり等）」といった専門分野のサポートを行うことより、安定し、持続的なまちづくりや自立した持続可能な地域コミュニティづくりを実現している。具体的な実践内容としては、２００７年度から継続的に進めてきた自然とふれあうワークショップと絵本づくりプロジェクト、絵本読み聞かせワークショップ、その絵本原画展、造形ワークショップ、そして神戸芸術工科大学のまちづくりの１０年間の歴史を振り返る「ガーデンシティ舞多聞展」の開催などである。
12.沖縄県風致保全方針と許可実務の手続き策定	共	2005年～2006年	都市計画	（沖縄県） 担当種別：主担当、担当内容：調査、条例策定 沖縄県における風致地区の保全方針を策定するための調査と許可実務の手続きマニュアルの作成を行った。
13.首里城公園及び周辺の景観・観光に関する将来ビジョン策定	共	2005年～2006	まちづくり	（沖縄県） 担当種別：主担当、担当内容：調査、景観計画、観光計画 世界遺産・首里城の将来ビジョンの策定のための調査および検討委員会の開催を行った。主に景観・観光についてのあり方や将来に向けての整備方針について提言し、報告書にまとめた。
14.首里城復元に関する一連の調査	共	2005年～2006	調査（復元）	（沖縄県） 担当種別：主担当、担当内容：調査、景観計画、観光計画 世界遺産・首里城の将来ビジョンの策定のための調査および検討委員会の開催を行った。主に景観・観光についてのあり方や将来に向けての整備方針について提言し、報告書にまとめた。
15.沖縄県大宜味村「長寿と癒しの里づくり」のワークショップ・シンポジウム企	共	2003年～2004	都市計画	（沖縄県大宜見村） 担当種別：主担当、担当内容：基本構想（まちづくり） 長寿の村として有名な大宜味村の里づくりについて早稲田大学と共同でワークショップを開催した。また長寿と癒しの里として医療特

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
画運営、医療特区としてのマスタープラン作成				区を見据えた将来ビジョンについてマスタープランをまとめた。この内容を踏まえて大宜味村でシンポジウムを開催した。
16.沖縄県金武町新開地の町並みに関する一連の調査および地域計画	共	2003年～2004	まちづくり	（沖縄県金武町） 担当種別：主担当、担当内容：町並み調査 米軍基地に隣接する金武町新開地の町並み評価のための調査を行い、報告書としてまとめた
17.公共施設・「金武町アクティブパーク・管理施設」	共	2003年	公共建築（事務所）	（沖縄県金武町） 担当種別：主担当、担当内容：公園全体計画・実施設計・設計監理 米軍基地に隣接する金武町の新開地エリアに公園（アクティブパーク）と管理施設を整備した。ウォールペイントが景観的特長を有するエリアであるため、管理施設の壁面もウォールペイントを施して周辺環境との調和を図った。
18.世界遺産・座喜味城跡周辺の景観・観光に関する将来ビジョン策定	共	2002年～2006	まちづくり	（沖縄県読谷村） 担当種別：主担当、担当内容：調査、基本計画 座喜味城跡が世界遺産に登録されたことを機に、周辺環境の景観・観光について将来ビジョン策定を行い、報告書としてまとめた。
19.公共施設・沖縄美ら海水族館	共	2002年	公共建築（水族館）	（沖縄県本部町） 担当種別：副担当、担当内容：模型作成、設計補助 美ら海水族館は旧水族館の後方の山手側に位置し、海への眺望を遮らないよう山の斜面に沿って建っている。公園の景観に配慮し、できるだけボリュームを小さく見せるように屋根を分節化し軒を低く抑えた。また、深い庇や雁行した壁面により建物全体に陰影を創り表情を与えた。その他に亜熱帯気候である沖縄の風土を考慮し、エントランス広場上部には暑い日ざしや雨を遮る風通しのよい半屋外のパーゴラ大空間を設けた。
20.公共施設・「世界遺産周辺整備事業　喜名番所・周辺環境整備」	共	2002年	公共建築（みちの駅）	（沖縄県読谷村） 担当種別：主担当、担当内容：まちづくり全体計画・実施設計・設計監理 座喜味城跡が世界遺産に登録されたことを機に世界遺産周辺整備事業の一環として、かつて琉球王府が主要な村に整備した番所（役所）を観光案内・休憩所として再現整備を行った。加えて、馬場や松並木の整備を中心に周辺環境の整備を実施した。
21.公共施設・「首里城二階御殿施設整備」	共	2001年	公共建築（展示施設）	（沖縄県那覇市） 担当種別：主担当、担当内容：実施設計 かつて琉球国王の居住施設であった二階御殿の復元整備を行った。１階はＲＣ造の外観復元とし、２階は木造の復元を行った。１階部分には首里城管理のための事務機能、２階は国王の居住空間として公開している。
22.公共施設・「首里城右掖門施設整備」	共	2000年	公共建築（工作物）	（沖縄県那覇市） 担当種別：主担当、担当内容：実施設計 世界遺産に登録された首里城の城門の復元整備を行った。古写真分析から往時の形状を導き出して、伝統的工法により復元した。
23.公共施設・「首里城日影台施設整備」	共	2000年	公共建築（工作物）	（沖縄県那覇市） 担当種別：主担当、担当内容：実施設計 世界遺産に登録された首里城がかつて使用していた日影台の復元整備を行った。古写真や文献資料から往時の形状を導き出して復元した。
24.商業ビル・那覇新都心メディアビル	共	2000年	オフィスビル	（沖縄県那覇市） 担当種別：副担当、担当内容：コンペ・基本設計 那覇新都心メディアビルは単に商業ビルにとどまらず、低層部を緑化し、空間フレキシビリティーを確保し、風土に根ざしたデザインやパッシブソーラーシステムを用いたこれからの時代にふさわしい大規模建築のあり方を提案した設計といえる。
25.公共施設・下地町庁舎	共	2000年	公共建築（庁舎）	（沖縄県下地町） 担当種別：副担当、担当内容：基本設計・模型作成 下地庁舎は単に行政･政治の中心施設であることにとどまらず、町民コミュニティー意識を醸成し、21 世紀に向かって庁舎としてのフレ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
26.公共施設・読谷文化センター	共	1999年	公共施設（複合施設）	キシビリティーを確保し、これからの時代にふさわしい町民へのサービスの向上を図ることを基本方針とした設計としている。 （沖縄県読谷村） 担当種別：副担当、担当内容：基本設計・模型作成 文化センターの建築的姿形は併設する役場庁舎と同じ赤瓦を用いて地域の表情（風景）づくりに参加し、南国沖縄の強い日差しを浴びた屋根と雨端が光と影のコントラストを現出する空間を表現している。
27.公共施設・国営沖縄記念公園首里城地区整備	共	1998年～2011	都市計画、公園計画	（沖縄県那覇市） 担当種別：主担当、担当内容：調査、復元整備計画 かつて首里城を構成していた施設郡の復元整備における計画策定のための調査と検討委員会の開催を行った。 主に利用計画と施設復元についてのあり方や将来に向けての整備方針について提言し、報告書にまとめた。
28.寺院・「国宝太山寺・龍象院再生整備」	共	1998年	個人（寺院）	（兵庫県・神戸市） 担当種別：主担当、担当内容：実施設計・設計監理 神戸市で唯一の国宝である太山寺の塔頭である龍象院の再生整備を行った。茅葺の屋根の屋根裏を展示ギャラリーとし、土間空間を復活させることで、地域住民の憩いや集いの場となるよう設計した。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.「抱護」と沖縄の村落空間	単	2019年11月	令和2年度公益社団法人久米国鼎会文化講座	公益社団法人　久米国鼎会 令和元（2019）年度公開文化講座（シンポジウム）招聘講演
2.（依頼講演）平成30年度　沖縄県公文書館公文書活用講座「空中写真にみる沖縄の村落空間」	単	2018年7月21日	沖縄県公文書館	http://www.archives.pref.okinawa.jp/event_information/on_demand/7676
3.（依頼原稿）琉球列島における近世村落の村立て手法と空間構成	単	2016年4月	一般社団法人沖縄しまたて協会 建設情報誌「しまたてぃ」No.76 pp.4-8	近世期に村立てされたとされる琉球列島各地の村落を抽出し、地形的立地条件との関係に注目しながら類型分類を行って、各村落の空間構成を詳しく分析することを目的としている。
4.重層的住宅セーフティネット構築支援事業　福岡県大牟田市の空き家所有者を対象とした空き家の管理実態と活用意向に関する調査	共	2016年3月	大牟田市居住支援協議会	大牟田市おける空き家の所有者への直接調査を行い、空き家の維持管理の実態及び活用意向を分析することで、空き家の管理実態の把握と、なぜ多くの空き家が活用されていないかを明らかにすることが可能と考えた。さらには、空き家が流通しない原因や所有者の課題を把握することで、空き家を地域資源として活用に資する方策を検討することが究極の目的である。
5.平成25年度　大牟田市空き家調査報告書	共	2015年3月	大牟田市居住支援協議会	近年、全国的な人口減少や都市部への人口流出、高齢化社会などによる空き家の増加が問題視されている。本報告書が対象としている福岡県の大牟田市も例外ではなく、年間1500人近い人口減少や高齢化、今後10年間で約4000世帯が減少するとういう推計データから空き家化する戸建て住宅などが今後、地域が抱える大きな問題の1つになるということが考えられる。 　このような社会的背景を受け、行政と高専が共同で大牟田市全域の空き家の実態の把握を行った。本報告書はその結果をもとに分析や全国各地の空き家活用の事例収集を行うとともに、大牟田市の空き家における活用の提案を行うことにより、今後の空き家を利活用した活動を考える際の基礎資料となることを目的としている。
6.（依頼原稿）間切番所が置かれた村落「主村」の空間	単	2015年1月	一般社団法人沖縄しまたて協会 建設情報誌「しまたてぃ」No.72 pp.4-8	本研究は近世期に琉球王府が村落統制を行う際に重視した沖縄本島の「主村」を対象として、それらの景観復元を通じて間切番所の配置構成を明らかにし、村落の景観的な構成要素の分析から村落空間の特徴を探究することを目的としている。現在の沖縄村落の構造的起源を近世期に求め、その特徴について、文献・既往研究や聞き取り・現地調査及び近世末期の村落景観復元を通じて検討した。主な論考として、近世村落では中世的村落の社会構造的な特徴を持続していたことが確認された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
1.令和6年度　丹波市「丹（まごごろ）の木」プロジェクト	単	2024年9月2日~2025年2月28日	丹波市包括連携協定大学活動支援補助金	「丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度も実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部　農林整備課及び市内林産業者と本学教員及び学生が行う。 具体的には、過年度より実施してきた、「ハッピーバース応援ギフト事業」の次なる展開について提案し、㈱木栄と協働で丹波市産木材のブランディング、FOREST DOOR -旧神楽小学校-と連携した木域コミュニティの形成に向けた戦略の検討の提案に向けた調査や議論を行う。
2.科学研究補助金基盤研究（C）新規（研究代表者）「南西諸島人々の一生を包む独自の生存領域「シマ」の空間秩序及び形成原理の復元的研究」	共	2024年4月1日	日本学術振興会	課題番号２４Ｋ０７８５１ 鎌田誠史（研究代表者）、山元貴継、陳　碧霞 南西諸島では人々が、厳しい自然条件下で定住できる領域を確保するために、生存の根幹にかかわる水（湧水や集水）を最重要視して集落＝シマを設け、各島の地形的特徴によって規定される「集水域」などを読み取りながら、自らが「生存」する生活空間としての「生存領域＝シマ域」を各地に明確に形成するという、独自の生存文化を共有してきた。 本研究課題では、このような「シマ域」の形成において、南西諸島を貫く伝統的な環境対応が作用していたものと仮説し、地形などによって形成された各集落の周囲までを含めた「集水域」を手がかりにかつての「シマ域」を想定し、それらどうしを比較・類型化した上で、南西諸島における人々の独自の生存領域としての「シマ域」の空間形成原理を明らかにする。そして、南西諸島一帯の集落形成について、人々が環境をどのように認識し、集落を形成したか、その空間的系譜を体系的に描き出すことを究極の目的とする。
3.令和5年度　丹波市「丹（まごごろ）の木」プロジェクト	単	2023年4月24日~2023年7月24日	丹波市包括連携協定大学活動支援補助金	「丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度も実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部　農林整備課及び市内林産業者と本学教員が行う。 具体的には、丹波市が実施している「ハッピーバース応援ギフト事業」のアイデアの提供や技術的補助を引き続き実施することに加えて、本年度は過年度も含めた活動内容の情報発信や㈱木栄と協働で丹波市産木材のブランディング、FOREST DOOR -旧神楽小学校-と連携した木域コミュニティの形成に向けた戦略の検討及びその検討に向けた丹波市及びその周辺の関係者との協議や事例調査等を実施する。
4.令和4年度　丹波市「丹（まごごろ）の木」プロジェクト	単	2022年5月18日~2023年3月8日	丹波市包括連携協定大学活動支援補助金	「丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度も実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部　農林整備課及び市内林産業者と本学教員が行う。 具体的には、丹波市が実施している「ハッピーバース応援ギフト事業」のアイデアの提供や技術的補助を引き続き実施することに加えて、本年度は㈱木栄との共同企画事業として木を食べるプロジェクトも実施する。また、フォレストドアしぐらの今後の活用計画についての助言や検討について公立大学大阪との協働により実施する予定である。このような一連の取り組みが、丹波市において産業として成立していくことも念頭に置いた事業としていくことで、地域振興にもつなげていくことを考えている。
5.科学研究補助金基盤研究(B)（一般）継続（研究代表者）「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」	共	2022年4月1日	日本学術振興会	課題番号１８Ｈ０１６１２
6.大学発アーバンイノベーション神戸	共	2022年～現在	神戸市研究助成	松山聖央（研究代表者）、許載永、三宅正弘、鎌田誠史、小泉寛明
7.令和3年度　丹波市「丹（まごごろ）の木」プロジェクト	単	2021年5月16日2022年3月8日	丹波市包括連携協定大学活動支援補助金	丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度も実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部　農林整備課及び市内林産業者と本学教員が行う。 具体的には、丹波市が実施している「ハッピーバース応援ギフト事

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				業」のアイデアの提供や技術的補助を引き続き実施することに加えて、本年度は㈱木栄との共同企画事業として木を食べるプロジェクトも実施する。また、フォレストドアしぐらの今後の活用計画についての助言や検討について公立大学大阪との協働により実施する予定である。このような一連の取り組みが、丹波市において産業として成立していくことも念頭に置いた事業としていくことで、地域振興にもつなげていくことを考えている。
8.生き続けるモンスーンアジアの持続可能な集住環境の叡智の探求	共	2021年4月1日~2023年3月31日	武庫川女子大学生活美学研究所特別研究	鎌田誠史（研究代表者）、宇野朋子 モンスーンアジア地域における伝統的な集住環境の「立地特性（場所）」「伝統的環境対応（営み）」「空間構成（かたち）」に主眼を置き、モンスーンアジアの環境に適した暮らし方研究を統合・比較・検討することで、地域を越えた集住環境形成技術の普遍的な原理と、地域固有のエコロジカルな環境観を考究する。
9.科学研究補助金基盤研究(B)（一般）継続（研究代表者）「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」	共	2021年4月1日	日本学術振興会	課題番号１８Ｈ０１６１２
10.科学研究補助金基盤研究(C)（一般）「琉球列島における旧集落「古島・元島」から現集落への移動秩序の可視化手法による解明」	共	2020年4月1日~2023年3月31日	日本学術振興会	課題番号20K01148 研究分担者 山本貴継（研究代表者） 本研究では、全国の集落に関して議論の続く、中世～近世においては連続性と断絶性とがいかに存在するのかという問題を明らかにするための土台の一環として、琉球列島における中世以前の旧集落とされる「フルジマ（古島）」「モトジマ（元島）」などの実態解明を目指すものである。そこでは、文献や現地住民による伝承を収集するだけでなく、1889年以降進められた「土地整理事業」による地籍図や土地台帳を活用し、それらのGIS処理を通じて具体的な旧集落の範囲を想定し、地図を作成するなど「可視化」する。同時に現地調査を重ね、それらの旧集落の立地条件や構造、そしてそれらの集落が現在みられる集落へとどう移動したのかを分析する。
11.令和2年度　丹波市「丹（まごごろ）の木」プロジェクト	単	2020年4月1日~2021年3月31日	丹波市包括連携協定大学活動支援補助金	「丹波市における少子化対策と木育の推進」を今年度に実施するにあたり、現地の状況確認及び実施に向けた協議を、丹波市産業経済部農林整備課及び㈱木栄と本学教員が行う。 具体的には、新生児が生まれた家庭に木製品（例えば食器や玩具）を丹波市が出産祝い品として贈呈、幼いころから木に親しんでもらうことを考えているが、その木製品のアイデアを学生から募集することに関する協議や技術的補助を行う。 その様な木製品づくりが、丹波市において産業として成立していくことも念頭に置いた事業としていくことで、地域振興にもつなげていくことを考えている。
12.科学研究補助金基盤研究(B)（一般）継続（研究代表者）「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」		2020年4月1日	日本学術振興会	課題番号１８Ｈ０１６１２
13.平成 31年度大学生による地域連携推進支援事業「高層団地の活性化を担う人材の発掘と多文化を学ぶ市民参加の場づくり」事業	単	2019年5月31日～2020年3月31日	兵庫県阪神南県民センター地域連携推進事業	平成28年度にリニューアルした芦屋浜高層団地の集会所を住民参加型の多世代交流スペースとして多世代が共助的活動に参加できるように住民参加型ワークショップを中心としたコミュニティマネジメントを実施してきた。兵庫県住宅供給公社と住民団体とそれを支援する自治体、こくさいひろば芦屋の協働体制のもとで住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史）と大学生が中心となって住民参加型ワークショップを企画・運営する。その時には住民側の人材発掘の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				ための調査やニーズの把握等を芦屋市と共同で実施しながら、「新たな担い手」の発掘とその組織化に向けて、調査とフィードバック、情報発信を行う予定である。また、こくさいひろば芦屋と協働しながら学国にルーツを持つ住民との交流を図るための市民参加型のイベントを開催することで、多文化を学びながら互いを理解しあう楽しい場づくりを行う予定である。
14.科学研究補助金基盤研究(B)（一般）継続（研究代表者）「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」		2019年4月1日	日本学術振興会	課題番号１８Ｈ０１６１２
15.科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）「抱護」と沖縄の村落空間－伝統的地理思想の環境景観学	共	2019年2月25	平成３０年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）	課題番号18HP5237 鎌田誠史（研究代表者）、山元貴継、浦山隆一、仲間勇栄、高良倉吉、安里進、澁谷鎮明 本書は、琉球列島において広く重視されてきた環境理念「抱護（ほうご）」について、その機能と形態に注目しながら、実際に各地の伝統的村落にみられてきたその立地特性と住民の認識から、この地域における普遍的な空間形成技術および、集住環境の構成原理を明らかにすることを目指している。
16.平成 30年度大学生による地域連携推進支援事業「高層団地の集会所と広場を拠点とした多世代交流スペースの提案」事業	単	2018年5月1日～2019年3月31日	兵庫県阪神南県民センター地域連携推進事業	大学と地域の連携事業の一環で芦屋浜高層団地の集会所を多世代交流スペースとして武庫川女子大の学生を中心に企画・設計・リノベーションを実施し、住民主体の住環境マネジメントの担い手として、多世代が共助的活動に参加できるようになるために、対象を高齢者のみに限定するのではなく、子育て世代、若年層（大学生）、子供とも快適に居住できる住環境の再生をめざして、多世代が相互に関わることができるコミュニティデザインを提示してきた。 その拠点となる場のデザインを行い、さらなる交流拠点の充実を図ることで団地再生のモデルを提示する。
17.科学研究補助金基盤研究(C)（一般）「沖縄・先島諸島の中世・近世期を通じた集落形態における非「格子状」空間配置の研究」	共	2018年4月1日~2023年3月31日	日本学術振興会	課題番号18K04522 研究分担者 浦山隆一（研究代表者） 本研究では、集落内の不規則的宅地割部分と御嶽・ムトゥ等の祭祀場所を含めた中世期の村跡とされる非「格子状」形態村に着目して、集落の形成・変容過程を考察する。また八重山諸島の現地調査を実施し比較を行い、古層での琉球諸島の集落形態における南島型共通項としての非「格子状」空間配置の解明を行う。
18.科学研究補助金基盤研究(B)（一般）新規（研究代表者）「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」	共	2018年4月1日	日本学術振興会	課題番号１８Ｈ０１６１２ 鎌田誠史（研究代表者）、浦山隆一、山元貴継、山本　正昭、陳碧霞、山田浩世、渋谷　鎮明 九州の南側を出発点として台湾まで伸びる「琉球弧」は、かつて琉球王国の最大版図となっていた。しかしながら、琉球弧の伝統的村落の研究については従来、各地域で個別に追求されやすく、村落構造を統一的に比較・検討する実証的な調査研究アプローチに乏かった。そこで本研究では、申請者らが沖縄本島・先島の伝統的村落の分析ですでに確立しつつある、統一手法による景観復元を用いた相対的な比較分析手法を広く琉球弧（南西諸島）全域に適用するこで、同地域の近代以降の著しい変容を経験する以前の伝統的村落空間の地域を越えた集住環境形成技術の普遍的な原理と、地域固有のエコロジカルな環境観を考究する。
19.平成29年度大学生による地域連携推進支援事業「高層団地の集会所を拠点とした持続可能な多世代共助コミュニティの育成」	単	2017年4月27日	兵庫県阪神南県民センター地域連携推進事業	リニューアルした芦屋浜高層団地の集会所を住民参加型の多世代交流スペースとして多世代が共助的活動に参加できるように住民参加型ワークショップを中心としたコミュニティマネジメントを実施した。兵庫県住宅供給公社と住民団体とそれを支援する自治体、管理業団体、ＮＰＯ法人、専門家組織の協働体制のもとで住環境・地域デザイン研究室（鎌田誠史）と大学生が中心となって住民参加型ワークショップを企画・運営することで、持続可能な多世代共助コ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				ミュニティを育成することにより、住民主体型のコミュニティ活動へとつなげていった。
20.科学研究補助金 基盤研究（Ｃ）「沖縄における海岸林の減災機能に関する歴史学的・植生学的研究」	共	2016年4月1日~2018年3月	日本学術振興会	課題番号16K07781 沖縄では、冬季の季節風と夏季の台風に伴う高潮、津波等の自然災害の被害を受けている。このため、自然災害に強い島の生態環境モデル構築が必要である。海岸林は、高潮、津波に対する減災効果があることが認識されている。沖縄では、琉球王朝時代から村の防風林、屋敷林、海岸防潮林などの幾重にも重なる「抱護（ほうご）」と呼ばれる林帯を造成し、農業生産の安定的な生態環境を作り上げてきた。この研究の目的は、明和の大津波（1771年）等による津波被害で生き残ったフクギなどの巨木分布やその配置を調べ、歴史文献・聞き取り調査を用いてそれらの防風防潮林としての減災機能を明らかにし、さらに歴史的方法で、琉球列島における島嶼型減災害に備える海岸林の植生構成、空間配置の原型を復元することである。
21.福岡県大牟田市における空き家所有者意向に関する基礎研究	単	2015年6月～2016年3月	受託研究（大牟田市居住支援協議会）	大牟田市全域における空き家の所有者への意向調査（1000件）を行い、空き家活用に向けて所有者の活用意向を明らかにすることを目的としている。また、地域連携事業として、空き家の情報の周知、モデル事業の研究や提案を地域と連携しながら行うものである。
22.空き家を活用したシェアハウス・地域サロンの整備手法と入居支援システムに関する研究	共	2014年4月～2015年3月	一般財団法人福岡県建築住宅センター調査・研究費助成	鎌田誠史（研究代表者）、坂口光一、牧嶋誠吾、三浦雅善、飛田国人、大川泰毅 人口が減少し空き家が急速に増加している地方都市大牟田において、住居を単体として捉えるのではなく、空き家を地域資源として捉えた活用策について、住宅のハード整備に加えて新たな発想による入居支援システムの構築を図った実践的な調査・研究を官学連携で行うことで、従来の定住移住政策だけでは抜本的な空き家解消が図れない空き家活用の新たな方途を考究することを目的としている。
23.科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）「琉球の近世計画村落形成に伝統的祭祀施設と村抱護が果たした役割と意味に関する研究」	共	2013年4月～2017年3月	日本学術振興会	課題番号22360257 浦山隆一（研究代表者）、澁谷鎮明、仲間勇栄、鎌田誠史、山元貴継、齊木崇人 これまでの成果を踏まえ、村落移動に伴う「お通し御嶽」成立と村落形成原理の関係、失われた抱護林植生理解のための御嶽林植生構造の調査などから琉球の近世計画村落の成立期における空間形成原理の探求を目的としている。
24.科学研究補助金 基盤研究（Ｃ）（研究代表者）「明和大津波で被災した琉球諸島の集落復興プロセスから見る環境再構築に関する研究」	共	2013年4月～2016年3月	日本学術振興会	課題番号22360257 鎌田誠史（研究代表者）、浦山隆一、澁谷鎮明、仲間勇栄、齊木崇人 明和大津波（1771年）によって甚大な被害を受けた琉球諸島の集落を対象に、被災による集落移動および再建にいたる一連のプロセスを空間的に復元して、復興における空間形成技術を考察し、津波で大きな被害を受けた環境下でもなお持続し秩序づけられてきた空間の特性を被災集落の「環境再構築」の構造として明らかにすることを目的としている。
25.小規模集落における持続型コミュニティのあり方に関する研究	単	2013年4月～2014年3月	校長裁量研究費（有明高専）	日本の小規模集落（高齢化率４０％以上、５０世帯以下）の村づくりを通して、持続型コミュニティと集落空間構成を把握し、持続型コミュニティのあり方を集落の空間構成を通して、持続型コミュニティと集落空間構成との関係性を明らかにする事を目的とする。そして、究極の目的として今後の農村環境デザインの計画手法を構築する。
26.福岡県大牟田市における空き家を活用した居住支援体制に関する基礎研究	単	2013年4月～2014年3月	受託研究（大牟田市居住支援協議会）	現在約12万人の人口を擁する大牟田市全域における空き家の実態調査を行い、空き家数を明らかにし、データーベース構築のための基礎資料作成を目的としている。また、地域連携事業として、空き家の情報の周知、モデル事業の研究や提案を地域と連携しながら行うものである。
27.科学研究補助金　基盤研究（Ｃ）「小規模集落におけるリスクリダクションの叡	共	2012年4月～2014年3月	日本学術振興会	課題番号22360257 齊木崇人、浦山隆一、渋谷鎮明、鎌田誠史、上原三知 日本の生きつづけてきた小規模集落には、震災・災害に対する備え「リスクリダクション（危険低減）」の叡智があると仮説し、その

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
智を生かした環境構築に関する研究」				仕組みと集落の空間構成を把握し、「リスクリダクション」の叡智を明らかにすることを通して、小規模集落の「環境構築」の構造を明らかにする事を目的としている。
28.「方丈の庵」の居住空間のデザインに関する実践的研究	共	2012年4月～2013年3月	共同研究（神戸芸術工科大学）	金子晋也（研究代表者）、齊木崇人、曽和具之、不破正仁、鎌田誠史 吉武泰水、齊木崇人らにより再現された「方丈の庵」（神戸芸術工科大学に保管）の神戸ガーデンシティ舞多聞の緑地公園内への移築を通じて、現代における居住空間のデザイン手法を構築することを目的として考察した。
29.沖縄・八重山諸島の集落における明和大津波の被災状況の分析と集落移動および再建過程に関する復元的研究	単	2012年4月～2013年3月	校長裁量研究費（有明高専）	明和大津波により甚大な被害を受け、集落移動と再建を経験した八重山・石垣島の集落には、震災や津波に対する備え「リスクリダクション（危険低減）」の叡智があると仮説し、集落移動と再建のプロセスを「土地の記憶」「歴史の記憶」「かたちの記憶」から復元して考察することで、被災集落の「環境再構築」の構造とリスクリダクションの仕組みと明らかにすることを目的とする。
30.科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）（研究代表者）「沖縄の固有文化が持つ環境観と空間形成技術から見る集住環境の構成原理に関する研究」	共	2010年4月～2012年3月	日本学術振興会	課題番号22360257 鎌田誠史（研究代表者）、齊木崇人、浦山隆一、澁谷鎮明、山元貴継 沖縄の集落立地特性と地域固有のエコロジカルな環境観を歴史的居住空間が持つ環境と空間形成技術と捉え、集住環境の構成原理として探求することを目的としている。その際、伝統的集住環境の構成復元を試みて、長い歴史の中で、沖縄の人々がどのような空間を形成してきたのか、その集落形成の持続と変容のプロセスを考究した。
31.ユネスコデザイン都市連携による環境デザイン教育に関する国際教育プログラムの構築と実施方法に関する研究	共	2010年4月～2011年3月	共同研究（神戸芸術工科大学）	佐々木 宏幸（研究代表者） 、川北 健雄 、岡村 光浩 、鎌田 誠史 神戸学園南地区において、環境共生・市民協働・安全安心をキーワードとする新たなプロジェクトである「てらいけエリア（約10ｈａ、約150棟）の良好なまちなみ、コミュニティ育成を目指す企画型まちづくりのサポートを行った。
32.「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクトにおけるコミュニティデザインとコミュニティマネジメントの実践的研究	共	2010年4月～2011年3月	共同研究（神戸芸術工科大学）	鎌田誠史（研究代表者）、齊木崇人、佐々木宏幸、谷口文保、久本直子 新しく計画される郊外住宅地（神戸「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクト）の計画・実践と、既往の計画・実践例の経験を通して、「新・田園都市構想」に基づく、歴史的経験を生かした「次の目標となる郊外住宅地」の、1）コミュニティデザイン、2）空間デザイン、3）コミュニティマネジメント、の手法の構築を主目的として考究した。
33.科学研究補助金基盤研究（Ｂ）「沖縄の集落空間における伝統的人工林「抱護」の形態と機能に関する研究」	共	2009年4月～2011年3月	日本学術振興会	課題番号21360300 浦山隆一（研究代表者）、澁谷鎮明、仲間勇栄、山元貴継、鎌田誠史 「伝統的な」人工林である抱護（林）について、その形態形成にはたらく沖縄の伝統的地理思想の論理を探る。また東アジアの他地域において同様にして伝統的に維持・管理されてきた人工林（韓国の裨補林や中国の風水樹）との関連で「島嶼琉球型」としての位置づけを目的として研究した。
34.神戸学園南地区平成21年度舞多聞倶楽部運営業務	共	2009年4月～2010年3月	受託研究（独立行政法人　都市再生機構西日本支社）	佐々木宏幸（研究代表者）、鎌田誠史、谷口文保、久本直子 ガーデンシティ舞多聞のプロジェクトにおけるコミュニティマネジメント（ルールづくり・組織づくり等）といった専門分野のサポートを行うことにより、安定し、持続的なまちづくりや自立した持続可能な地域コミュニティづくりを行った。
35.神戸学園南地区平成22年度てらいけプロジェクト実現化方策検討他業務	共	2009年4月～2010年3月	受託研究（独立行政法人　都市再生機構西日本支社）	齊木崇人（研究代表者）、佐々木宏幸、鎌田誠史、宮代隆司、橋本大樹 ガーデンシティ舞多聞のプロジェクトにおけるコミュニティマネジメント（ルールづくり・組織づくり等）といった専門分野のサポートを行うことにより、安定し、持続的なまちづくりや自立した持続可能な地域コミュニティづくりを行った。

学会及び社会における活動等

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年11月1日～2026年10月31日	芦屋市都市景観審議会委員
2.2021年8月2日～2021年10月8日	堺市プロポーザル方式による委託業務事業者選定委員会（委員長）
3.2021年7月1日~2025年6月30日	芦屋市市民参画協働推進会議委員
4.2016年4月～2018年3月	神戸市景観審議会委員
5.2016年4月～現在	芸術工学会代議員
6.2015年4月～2016年3月	街なかストリートデザイン事業推進委員会委員
7.2014年4月～2016年3月	福岡県大牟田市居住支援協議会委員
8.2014年4月～2016年3月	福岡県大牟田市営住宅審議委員会委員長
9.2013年4月～2016年3月	熊本県荒尾市景観審議会委員
10.2013年4月2015年3月	福岡県大牟田市中心市街地活性化協議会準備委員会委員
11.2012年4月～2016年3月	日本建築学会九州支部計画委員会委員
12.2006年～現在	芸術工学会
13.2006年～現在	日本建築学会